

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Kaigokensaku MHLW.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for Kaigokensaku MHLW.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- List of points: 利用者様の意思やペースを大切にしている, リビングの窓が大きく、開放的な景色が見渡せる, etc.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアの事業所として歩み初めて20年目を迎える2ユニットの事業所で、地下鉄駅やバス停が近く、近隣には大型スーパーや郵便局、公園、小学校なども点在し、暮らしに便利な環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員で話しあって作り、各階と玄関に掲示し職員は日常的に確認をしている	法人の運営理念を主軸に事業所独自の理念を策定し、更に具現化した目標を掲げている。毎年度末には振り返り現状に即しているか話し合い、職員の意識統一につなげケアの指標としている。新採用時も理念の意義を説明し共有を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りに参加や、行事にボランティアを依頼し交流を図っている	コロナ禍の5類移行後は町内会の行事も再開し、利用者は「マルシェ」でゲームを楽しみ、お祭りにも参加している。町内の回覧板で法人の広報誌を毎月配布し、介護相談や清掃活動への参加、研修生やボランティアの受け入れなど、事業所も控えていた地域交流を徐々に始めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌や運営推進会議を通して、事業所の情報を発信し随時見学や相談に対応している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員や、地域包括の方と意見交換しサービスの向上に活かしている	6月から通常開催となり、包括支援センター職員や町内会役員、利用者家族の参加を得て、事業所や利用者、職員の状況や事故や医療連携等に関して報告し、質疑応答の結果は運営に反映している。議事録は全家族に配布している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や電話等にて、地域包括や市の担当者と情報交換を行っている	介護保険制度や事業所の事案など、課題内容によって本部職員又は管理者が対応し指導を仰ぎ、情報や知識の共有を図り、協働関係を築いている。介護認定調査訪問時や運営推進会議参加の担当職員には情報を提供し協力を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会にて知識を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる 防犯の為玄関の常時開錠は難しいが、人の出入りが多い時間は開錠している	指針を定め、委員会は運営推進会議内で2か月ごとに開催している。研修は外部研修後の伝達研修を含め年2回実施し、身体拘束の弊害を学び、周知徹底に努めている。家族の同意の下にセンサー使用時はケアプランに経過を記録し、玄関は防犯上日中も施錠する時間もあるが、閉塞感や抑圧感の無い自由な暮らしを支えている。職員は年1度の自己点検で自身のケアを振り返っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会にて話し合い理解を深めて、虐待防止に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ないので、会議や研修などで制度の理解を深め、今後必要な時に活用したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より必要な説明を行い、不安がないよう疑問点を伺うとともに、利用者ご家族ともに安心して頂けるよう心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々のコミュニケーションから要望を汲み取りご家族へ小まめに連絡をとり意見や要望を聞き取り、会議にて改善内容を話し合い運営に反映させている	現在は居室での面会が可能になり家族の訪問も多く、要望の聞き取りにも活かしている。利用者からは無いが、家族から外出の機会を増やして欲しいとの要望に応え、5類移行を機に町内会行事やドライブに出かけている。毎月、法人合同の通信と個別に利用者の医療面や健康状態、暮らしぶりなどを手紙で報告し安心につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の中で意見交換し、実現可能な事は働きかけや実現に向け取り組んでいる	管理者は働きやすい環境整備に努め、職員との面談の機会を設けて要望や提案を汲み取っている。職員は各々に役割を担って運営に参加し、日々の申し送り時や毎月の会議では相互に意見交換が行われ、利用者のサービス向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し達成出来るよう取り組んでいる。会議などで意見交換し環境整備出来るよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会があり、定期的に学ぶ機会を設けている。外部研修に参加した際は内部研修にて報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて交流や意見交換をしている。またその得た情報は職員に知らせ周知に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談にて情報収集しご家族、ご本人から話をききその人らしく安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談にて、不安や要望を傾聴し、小さなことでも話していただけるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が求めているサービスを見極め、他のサービス利用も含めた対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や行えることは利用者様と共に行い、生活感や生きがいを持って生活が出来るよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や電話、面会時に日常の様子報告を行い、情報の共有を図っている また、特変時は都度報告をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中から、利用者の好きな物や場所などを聞き取り希望にそえるよう努めている またご家族からの情報収集に努めている	コロナ禍の5類移行後の面会は居室対応が可能になり、家族や親族と水入らずの時間を楽しんでいる。家族の協力を得て、年末年始の自宅外泊や見舞い、墓参りが実現し、これまでの馴染みの人や場との関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑にコミュニケーションが取れるよう必要により職員が仲介している。座席の配慮や活動への声掛けを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時何か困ったことなどあればいつでも連絡いただくようお願いしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通して思いや希望の把握に努め、困難な場合でも家族より情報を集め、少しでも意向に沿えるように取り組んでいる	入居時にはセンター方式を活用し基本情報を収集し、日常では利用者に希望や要望を聞き取ったり、困難な場合は健康状態を見極め、表情や仕草、声掛けに対する反応から推し量るなど、思いの把握に努めている。	人生の最終段階に向けて、本人の思いが重要と考えられ、時間の経過によっても変化が有ることから、日常の会話の中で意向を汲み取り、得た情報を記録し、家族や職員と共有を図ることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したり、家族からの情報や日々のケアを通して本人より情報を集め、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察で変化があれば記録や申し送り等で現状の把握をし情報の共有をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、または状態変化時に統一したケアが出来るよう職員で話し合い見直しをしている。家族、職員と共に相談しながら作成している	居室担当職員が中心となりアセスメント、モニタリングを行い、利用者、家族の要望、医療関係者の所見を踏まえ原案を作成し、職員間で協議の上、介護支援専門員が纏めている。介護計画、アセスメントは6か月ごとに見直され、モニタリングは3か月ごとに行っている。特変事は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りなどで情報共有して、毎月の会議にてケアの統一を行って実践に取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に対応し、カンファレンスや日々の送りの中で情報共有し必要なサービスの提供の提案を行い、より良い生活が送れるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を取り入れて本人が必要なサービスを行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、週1回の健康チェックを行い、又24時間オンコール体制を取っている。また必要な受診についても主治医より意見いただき対応している	契約時に協力医療機関の説明を行い、利用者、家族の意向を尊重している。協力内科医の月2回の往診や訪問看護師の週1回の健康チェックが行われ、どちらも24時間連携体制が確保されている。歯科医も定期往診対応だが、かかりつけ医の外来受診は家族支援を基本としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェック、24時間オンコール体制にて、日常の様子を報告、相談している。必要な際には電話にて相談し指示をいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、家族・病院と情報交換を行っている。あらかじめご家族から希望の病院をお聞きし緊急時対応できるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別に家族と話し合い、取り組んでいる。重度化した場合の対応指針を作成し、意思確認書にて定期的に家族の要望を聞いている。	重度化や終末期に関する指針を定め、契約時に説明し同意を得ている。更に、年1度定期的に意志確認書にて、延命処置等の終末期の意向の把握に努め、事業所での看取りを希望する本人、家族の想いを受け止め、チームで支援している。職員は経験から得た知識や技術に加えて、看取り研修で更にスキルを磨き、態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、実践できるように努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い緊急時に備えている。近隣の施設と協力協定を結んでいる	併設の小規模多機能事業所と合同で夜間想定火災避難訓練を実施し、水害避難と避難経路や場所の確認をシミュレーションしている。非常時備蓄品の確保、業務継続計画を策定している。	地震想定避難訓練、日中想定火災避難訓練に加えて利用者の様々な居場所を想定した(浴室、トイレ、居室等)避難訓練の実施など、防災対策強化への取り組みを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや介助時に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている	虐待防止等の研修で尊厳と権利を守るための基本を学び、運営理念に沿って、介護時の言葉かけや対応に注意を払い実践に努めている。申し送り時はイニシャルや部屋番号で表し、呼称は「さん」付けで行い、個人情報安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれに合わせた声掛けをし、利用者が選択できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し支援するよう心掛けているが、職員の勤務体制などで難しい時もある。食事や入浴等本人のペースを尊重し、疲れや眠気が見られたら休息を促す等、行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を活用したり、好きな色や好みそうな物を用意している。また、外出や行事の時にはおしゃれをして参加していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた形態で食事を提供している。行事の際など季節を感じられるような食事が楽しめるように努めている。準備や後片付けも利用者と一緒に行うなどしている	日常食は併設事業所共通の献立で栄養バランスが良く、職員が調理し、食事形態にも対応している。誕生日はケーキで祝い、利用者の嗜好も考慮した多彩な行事食を企画し、手作りおやつに出前やテイクアウトも活用し、満足感につなげ、食卓が賑わい食べる喜びを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録や温度版に記載し、摂取量の把握をしている。摂取が少ない時などは時間を置いたり、小まめに提供し促したり好みの物を提供し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力でできる方は声掛け行い、できない方には介助して清潔を保持している。また歯科より口腔ケアマネジメントに係る技術的な指導を受け口腔ケアの質を向上させている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に応じたトイレ誘導を行っている	夜間ベット上のおむつ交換も有るが、排泄パターンを把握し声掛け誘導を行い、座位が保てる場合は立位や歩行が困難な方でも二人介助で支援するなど、個々の状態に合わせてトイレでの排泄を可能にしている。水分、乳製品の摂取、体操の工夫で自然排便につなげ、衛生用品も身体状況に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレ誘導や牛乳や乳製品の提供や体操やマッサージを行い、予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り本人の希望するタイミングを尊重できるように支援している 車イスの方も安心して入浴出来るよう、リフト浴でも入浴支援している	入浴は週2回を目安に支援しており、個浴の他に併設施設のリフト浴も使用し、ほとんどの利用者は湯船に浸かっており、状態によっては足湯を加えてシャワー浴で衛生保持に努めている。好みの湯加減や入浴剤の使用、職員との会話も弾み信頼感が深まる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、又、体調や状態に合わせて休息を取り入れている。夜間眠れない時は、話を傾聴し、安心していただけるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リスト、医師、看護師の指示にて目的や副作用を把握している。変化があれば、医師、看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、それぞれの役割や楽しみに繋がるよう支援している。好きなことの提供や活動、レクリエーションにて気分転換を図っている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにより外出支援がなかなか行えない状況。施設の中庭に出て外気浴やドライブだけの外出等で気分転換を図っている	この春から町内会行事が開催し、お祭りや「マルシェ」に利用者も参加している。事業所は状況を見極めながら、ドライブで神社や公園の桜見物に出かけて気分転換に努めている。家族の協力の下に、墓参り、見舞い、自宅外泊も実現しており、これから徐々に外出レクを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方がいないため、事務所にて管理している。買い物時の支払も職員が行っているので本人の能力に応じて支援できるように努めたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が中止の状況にて、定期的にご家族へ電話し元気な声を聞かせるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節に応じた飾りつけや写真を貼り、楽しんでいただいている。温度の調整も随時行っている	改造型の事業所なので、各ユニットの間取りに違いが有るが共有空間は明るく開放的で、窓からは公園の景色や幼稚園児の姿が望める。ソファや椅子を居間や廊下に配置し、利用者がそれぞれ寛げる空間となっている。壁面には季節の飾りやスナップ写真など掲示し、温湿度、空気の換気に配慮し、快適な環境を作り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をリビングや廊下に配置したり、席の配慮をしている。皆で集まって話ができる空間や、一人でのんびりと外の景色を見られる場所などが設けられている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使用してきた馴染みの物や写真等で居心地良く過ごせるよう工夫している	12畳ほどの居室には、カーテン、ベッド、洗面台、クローゼット、天袋付棚が備えてあり、十分な収納スペースが有る。入居時には大切な仏壇、整理タンス、生活必需品を持ち込み、棚には家族写真や趣味の本など飾るなど、自分らしい部屋を作り上げている。家具の配置も安全に考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には本人のわかる人形を付けたり、トイレとわかるよう表示したり、廊下の段差にはテープ等をつけてわかりやすくしている		